

えぬびい! Oh!

2017 冬
Vol.67



▶2P

あったかあ〜い交流を始めよう

〜気軽に集い、ほっとできるAzono にここぞ駅〜

▶3P

高知のことならまかしちょきうげる集団NPO うげうげ王国

〜土佐人気質を持って来訪者を歓迎する文化を世界に発信する団体〜

▶4〜5P

「土佐塩の道保存会」の歩む道

消えていた古道を復元し、守り育てる仲間達

▶6〜7P

こどもが運営するまち「とさっ子タウン」

〜これからの10年を目指して〜

あったかあ〜い交流を始めよう

～気軽に集い、ほっとできるAzonoにこここ駅～

保育を地域にひらき、小さな保育所を拠点に地域の住民(高齢者等)と子育て世代(子育て中の親子)が、顔の見える関係をつくる交流を行っている、多機能型小規模保育所。

今回は、そんな保育所の1つ、Azonoにこここ駅(以下、にこここ駅)について代表の田淵愛子^{たぶち あいこ}さんにお話しをお聞きした。

■子どもとお年寄りが繋がれる場を

園舎の右手にあるグレーのコンテナ、外装

に描かれているモスグリーン色の大きなドングリの木が印象的なにこここ駅。ユニークな園名は、生まれも育ちも違う、色々な人が乗り降りして



▲園舎右手のコンテナ

利用し、笑顔で集い、人が集まる駅のような園がいいねと、職員が話し合っけて名付けた。代表の田淵さんはNPO法人あおぞら広場Azonoの理事長でもある。

平成27年3月、20歳から40年間務めた民間保育園を退職した田淵さん、在任中、平成27年から小規模保育制度が始まることを知った。そして、「これだ!」と、描いていた「子どもとお年寄りが集い繋がる場所をつくりたい」という思いを強くした。

■戸惑いばかりだった開設

思いを実現するための協力者は同僚だった保育士の矢野恵子^{やの けいこ}さん。協力者を得た田淵さんは、他の園の保育もみてみたい、又これまで保育士として間接的に関わっていた給食や役員などの仕事を中心に学ぶため、1年間週1回公立保育園に務めた。

そして、まずは認可外保育所で、一時保育や子育てに孤立している保護者の応援をしようと、自宅近くの喫茶店だった場所を改装することにした。

■やっぱりやってみよう

認可外保育所の運営は厳しい。1名からのスタートで子どもがいらない、保育士が本当に集まるのか。不安を抱えながら小規模保育制度に関する情報を求めた。求めている中で、横浜市に視察する機会を得た。

横浜市のピッピ親子サポートネットが運営する小規模保育所は、日頃から顔見知りの子どもと高齢者が、同じフロアの交流スペースで自然な形で交流している。交流の様子を見学して、「やっぱりやってみよう」と思いを新たにした。

■まだまだ、これから

にこここ駅では、子どもが自然な形で触れ合い、地域の方々や高齢者との繋がりのきつかけになればと参加自由な催しを毎月1回企画している。そ



▲夏祭りで楽しむ親子の様子

にこここ駅これからの行事予定

12月 クリスマス会

1月 餅つき

2月 節分

3月 ひな祭り・お食事会

●保育所2階での子育て相談●

午前9時30分～10時30分

火・水・木曜日

●お問合せ先●

高知市薊野北町4丁目 7-24

TEL:088-846-5227

して、にこここ体操、夏祭り、折り紙教室などを、年間行事として地域の方々にお知らせしている。

10組の親子が参加した水あそび。地域の方や近くの高齢者施設の皆さんも参加して、ウサギやすずき等お月見に因んだ折り紙を楽しんだ折り紙教室。

現状は、始めたばかりで体制も整っておらず、まだまだ。これから、小規模保育のできることを、さぐりながら、にこここ駅が、気軽にほっとできる、あったかあ〜い交流の場になるようにと頑張っている。



▲大人も楽しんだ折り紙教室の様子

(のむ)

高知のことならまかしちょき うげる集団NPOうげうげ王国

～土佐人気質を持って来訪者を歓迎する
文化を世界に発信する団体～

土佐の夏の風物詩として、毎年全国から多くのよさこいファンが集まるよさこい祭り。今年で11回出場のNPOうげうげ王国は、県外からの参加者が全体の約半分を占めています。人気の理由を探ってきました。

■うげうげとは？

うげうげ王国(以下うげうげと称する)の「うげ」は、「うげる」という言葉に由来します。その意味は、土佐弁で「歓待する」。高知には、見知らずの人にもおもてなしをする文化があります。そんな高知のおもてなし文化を知ってもらいたい。そしてみんなに高知をもっと好きになってもらいたい。そんな思いに賛同した土佐人が集い、平成20年に建国しました。

■よさこい祭りへの参加

平成18年からよさこい祭りに出場しています。もともと県外から踊り子を呼び込むようになったのがきっかけで、当初は100名の募集でした。現在は、募集開始一週間で定員120名に達する人気チームです。



▲民謡しばてん踊りは「しばてん手ぬぐい」を頭からかぶり踊ります。

■国王の「いけえ〜」で始まる

うげうげには国王がいます。よさこい祭り

では煽り役です。地方車の上から「いけえ〜」のかけ声で音楽がスタートし踊り始めます。振り付けは、正調踊りにアレンジを加えたものと、高知県の伝統的なお座敷芸のひとつ「しばてん踊り」を交互に踊ります。練習が3日しかなくても踊っているうちに覚えてしまいません。

■うげうげの魅力II自由の間口が広い

今年参加された踊り子に、うげうげの魅力を感じてみると、①県外の参加者を受け入れてくれる、②地方車にビールサーバーがある(飲み放題)、③正調としばてん音頭という伝統の踊りが原点に戻る魅力を感じる、④観客を巻き込んで一緒に踊ることの楽しさは他のチームにはない、⑤練習が3日しかない、⑥子供と一緒に踊れるなど。踊り子にとって優しい、嬉しい、楽しいチームであることがわかりました。

■感想

初参加の親子にどこでうげうげを知ったのか質問すると、観光でよさこい祭りを見に来た帯屋町で、うげうげの踊りを見て雰囲気や熱気にもまれ楽しそうだから応募したと話してくれました。うげうげは、土佐の高知の「うげる」という方言が示す精神・文化をPRし、スタッフ自らも楽しみながら「土佐らしいおもてなし活動」を行う団体だなあと感じました。

(つづい)



▲毎年500組の鳴子を無料で配布。観覧客も一緒に踊って大行列になります。



じかたしや
▲地方車にビールサーバーを設置。今年は280リットルの生樽が用意されていました。

活動指針

- 一、うげうげ国民同士の挨拶は「うげうげ!」で統一する。(乾杯も含め)
- 一、うげうげ国民は観光客と思える人には「うげうげ!」と挨拶をする。
- 一、うげうげ国民は観光バスとすれちがうときには「うげうげ!」と言いながら手を振る。
- 一、うげうげ国民は観光客の手となり足となり、時には頭脳にもなる。
- 一、うげうげ国民は宴席で観光客と出会うたら、高知のお座敷遊びを披露する。
- 一、うげうげ国民は観光客が困ったときはうげうげ国民が困った時だと思ひ手助けをする。
- 一、うげうげ国民は県外の人に優しく接し、楽しくさせる。



「土佐塩の道保存会」の歩む道

〔活動の歴史〕

消えていた古道を復元し、守り育てる仲間達

2017年

- 1月 大板中学校 環境美化教育優良校に選ばれる
- 10月 第6回塩の道トレイルランニングレース実施

2016年

- 4月 香美市合併10周年記念事業 塩の道歩きとジャズ・ライブ実施
- 8月 高知県少子対策課事業 「お山のディス婚ダンスツアー」実施
- 10月 大板中学校生徒 ガイドに挑戦

2015年

- 5月 大板中学校 塩の道休場坂整備に参加
- 9月 自衛隊ボランティア協力
- 10月 ●第一回 高知県立大学3日間の塩の道歩き
●『新日本の歩く道100選、文化の道』に選定

2014年

- 11月 豪雨のため塩の道西川地区大被害
- 12月 香美市保護有形文化財として指定

2013年

- 12月 龍馬パスポート事業への加入
- 12月 第一回土佐塩の道トレイルランニングレース開催

塩の道取り組み10年の集いを赤岡弁天座にて開催

香美市・香南市領保存会を合併し「塩の道保存会」設立

塩の道30キロウォーク開催

塩の道キャラクターさくら丸誕生

活動拠点完成

『新日本の歩く道100選』

古道の復元。

さくら丸以外のイラスト：小村夏生

約400年前、香南市赤岡の塩や生活物資は、物部大柵を經由して徳島までつながる『塩の道』を通じて運ばれていた。しかし、文明の発展と共に使われることもなくなり、道沿いの、目的地までの距離を示す屋敷丁石やしきちよういしと呼ばれる大きな石も倒れたままとなっていた。

■活動はじまりの物語

それから時は流れ2002年。その倒れていた屋敷丁石を有志8名でおこした。

そこからボランティア有志での道の復元活動が始まった。少しずつ共感が広がり仲間が増え、4〜5年がかりで赤岡から大板までの30キロを復元した。活動は、ボランティアグループから組織化されたNPO活動へと発

展し、現在は

『土佐塩の道保存会』(以下「保存会」として、

継続して道の保存と活用を

行っている。保存会の活動は、

この15年の間に地域に何を

生み出したのだろうか。

■観光資源としての塩の道

昔ながらの山道を生かしている塩の道は、当時にタイムスリップしたような気分がウオーキングできる。初心者向けも含め多くのコースが準備され、ガイドが同行する。昨



年は650名ほどの利用があった。

イベントも人気だ。塩の道30キロウォークは、これまで9回開催し、のべ600名が参加している。今年のトレイルランニングレース出走者244名のうち約3割は県外からの参加者だ。

塩の道ブランドの商品も開発している。地元野菜を使った『塩の道弁当』は、竹の器や木の葉を使い、まるごと全て自然に還る。連携団体の「奥ものべじじばあぜん会」では、「塩の道

マーマレード」など、柚子を使ったオーガニックな加工品も製造販売している。

「塩の道弁当」は、竹の器や木の葉を使い、まるごと全て自然に還る。連携団体の「奥ものべじじばあぜん会」では、「塩の道マーマレード」など、柚子を使ったオーガニックな加工品も製造販売している。



▲塩の道弁当

※1 舗装路以外の山野を走るレース

生徒達は道を歩き、昔の暮しや土地の文化を学ぶ。大柵中では2001年から年に1回、道の清掃や草刈りを行っている。また、塩の道商品の販売体験学習



▲ガイド挑戦中の生徒達

■社会教育資源としての塩の道

塩の道は社会教育の場として、小中学校や大学、企業などからも活用されているが、なかでも香美市の大柵小中学校との教育連携は長年にわたり続いている。

■築いてきたもの

現在の会員数は約100名。多いようにも思うが、70歳代以上が中心であり、拡大していく活動に人手が追いつかないケースも出てきている。活動の継承に必要なガイドや運営を担う人材を育てていくことが今の一番の課題だ。

保存会は、これまで、たくさんのボランティアの協力で事業を行い、地域内外のつながりと誇りを築いてきた。もしこの会がなくなったら、消えてしまうのは道だけではない。

(たまき)

お問い合わせ先

●香南市観光協会●

TEL0887-56-5200

●香美市いんぷおめーしょん●

TEL0887-52-9880

●ホームページ●

<http://tosashionomichi.qcweb.jp>

Facebook でも情報発信中

(塩の道ルート)



こどもが運営するまち「とさっ子タウン」

～これからの10年を目指して～

毎年8月第3土・日に高知市文化プラザ
かるぼーとで開催される「こどもが運営する
まち＊とさっ子タウン」(以下「とさっ子」)。
今年も8月19日(土)・20日(日)の2日間、小
学4年生から中学3年生までのこどもたち
409名がこども市民として参加した。

◇とさっ子タウンとは

とさっ子は、高知市市民活動サポートセン
ターとNPO高知市民会議(以下「市民会
議」)の創設10周年を記念して、異年齢のこど
も同士のコミュニケーションの場や生まれ
育った地域に対する誇りを持てるよう
なきっかけづくりを目的に2009年から始
まり、毎年多くの専門家・ボランティア
スタッフ(以下「スタッフ」)の協力を得て開催
されている。

◇継続を支える多くの

協力支援

とさっ子は、これまで延べ3
283名の参加者がいるが、下
表のような多くの協力支援が
あって成り立っており、201
6年には、第8回協働のまちづ
くり表彰のグランプリや第65回
読売教育賞最優秀を受賞している。
とさっ子が来年度10周年の節
目を迎えるにあたり、これらの

2017年の協賛・協力実績

	実行委員	当日スタッフ	専門家	協賛金*	21社
19日	71名	147名	147名	商品提供	12社
20日	74名	127名	122名	物品貸出	7社

※17～18日の準備を含まず。*協賛金に寄付つき商品協賛を含む。

継続を支える団体・個人の方々との信頼関係
を今後も重ねていく必要があると考え、当日
協力をいただいた団体の方々にアンケートを行
い、活動への協力について率直な意見を聞いた。

◇アンケート結果から

今回のアンケートでは、6つの公的組織を
含め27団体から回答をいた
だいた。

まず参加回数は、「今回初
めて」から、「初回から継続し
て」を含め、平均で5.8回と、
一度参加すると継続してご
協力いただいていることが
分かる。

参加のきっかけは、グラフ

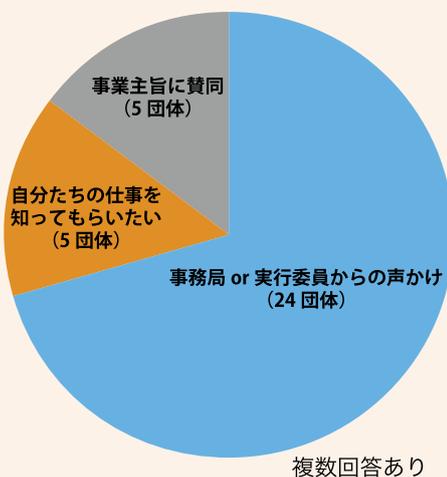
のとおり「実行委員や事務局からの声かけ」が
最も多く、「自分たちの仕事を知ってもらいた
い」「事業主旨に賛同して」と続き、人間関係が
重要であることが分かる。

次に、とさっ子の良いところは、「子どもた
ちの成長がわかる」「こどもたちが喜んでくれ
る、笑顔が良い、力をもらった」「こども市民か
らその道に進んでくれるこどもが出てきた」
「こどもたちが社会循環を学んでいるところ」
など事業主旨に沿った答えのほか、「振りか
えて自分たちの仕事を見直すことができ
た」という回答もあった。

とさっ子が協力団体から一方的に支援を受
けているというより、支援団体にとっても参

これまでの協力・支援実績	
専 門 家	1,031名
協 力	443 団体
協 賛	117 団体
(2017年を含まず)	293 万円

きっかけは？



加による利点があるといえるのではないだ
ろうか。
続いて、改良点は、照明や空調といった施
設の改善に関するものや、「もっとこどもに
任せるべき」という声のほか、「複雑になり
すぎているのもっと簡素化しマニュアル化
しては」という意見があった。一方、「連携の
仕組みがあることを知らなかった」や「大人
も買物ができるように」など、専門家に事
業主旨を理解してもらおうための情報提供不
足を感じるものもあった。
そして、こどもたちの変化を感じることは
という質問には、「リピーターが増え任せら
れる、絆が深まった」「多様な個性の参加が
みられる」「計画をもって参加するこどもが
増え、働く日と遊ぶ日があはつきり分かれた」な
ど。こどもたちの成長への喜びに対し仕組
みの見直しが必要ではないかという意見も上
げられている。

最後に、今後の継続的な協力に対しては、殆どの団体が協力したいという意見だったが、組織の大きい一部の団体では、事業主旨が担当部署とは違うなどなど負担を感じているところもあり、今後の対応を考える必要があるところも明らかになった。

◆これからの10年

こども市民から当日スタッフや実行委員へ、実行委員から専門家と立場が変わりながら関わり続けてくれる方々がいる。さらにとさつ子が同窓会という声もある。

これからのとさつ子を考えて、専門家から出されている、「もっとこどもに任せる」とや「ボランティアは多いほうがいいのか」など、初心に戻りもう一度考えてみる時期に来ているのではないかと思う。

スタート当時、市民会議の畠中事務局長は、10年はやりたいと言っていたが、早くもその10年がやってくる。次の10年は、実行委員のこどもや孫が参加できる。

本稿を書くにあたり、多忙な中アンケートにご回答いただいた専門家の皆さんやデータをご提供いただいた事務局にお礼を申し上げます。

(森岡)

●とさつ子タウンの様子●



清掃局：専用道具を使ったガラスの拭き方を教えてもらいました。



花や：フラワーアレンジメントを教えてもらいました。



漫画家：本を参考にしたり、イラストの描き方を教えてもらいました。



放送局：放送原稿の読み方を教えてもらいました。



消防局：作業の流れについて教えてもらいました。



木工工房：間伐材を使ったストラップづくりを教えてもらいました。

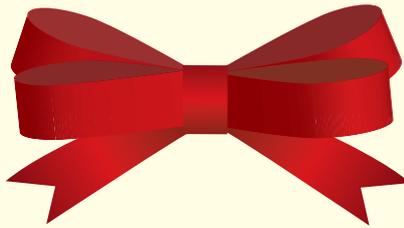
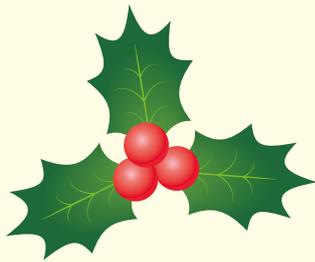
簡単! ナンプレ!

[ルール]

タテ4列、ヨコ4列のどの列にも1~4の数字が1つずつ入ります。

4			
		1	
1			3

	4		
		2	
2			
			4



答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。
URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

#編集スタッフの

つぶやき



@すずき

秋の夜長に、『銀河鉄道の夜』を読み始めました。温かい紅茶も用意して…。週末の夜の読書タイムで、日頃のストレスをリセット。



@もうり

最近、龍馬パスポートを取りました。観光施設などで押してもらえるスタンプが可愛くて集めるのが楽しいです。殿堂入り目指してがんばります!



@有光

最近、原付を手に入れて、移動範囲が格段に広がったのですが、夜の寒さを一段と感じるようになりました。これからの時期が恐ろしい。



@横田

夏のでると伸びて寝る猫もよいが、やたらくっついて丸くなるさまこそ猫の一番かわいい姿じゃなかろうか。ついにこの季節到来。

発行
企画編集

高知市市民活動サポートセンター
認定特定非営利活動法人
NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
月~金/10:00~21:00 土/10:00~18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : info@shiminkaigi.org

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています



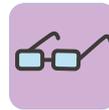
@みやわき

今年もカウントダウンに入りました。やってみたいこと、どれだけでできた?という反省よりも、来年の妄想を膨らませる毎日です。



@四宮

娘の一人が帰ってきた。高知を出たいということで都会に。一度、出るといってもありだよな〜。



@大野

メガネを新調しました。気分も新しく、かけるのが楽しいけど...鏡にうつる自分にまだ慣れません(^.^);